



2022年3月期

通期決算説明資料

株式会社 コンフィデンス
証券コード：7374

永井晃司(以下、永井):
みなさま、こんばんは。

株式会社コンフィデンス取締役CFOの永井でございます。
本日はお集まりいただき、誠にありがとうございます。

これより、2022年3月期通期決算説明会を開催します。
よろしくお願いいたします。

INDEX

目次

01

P.3

エグゼクティブサマリー

Executive Summary

02

P. 7

当社の概要

Company Overview

03

P. 11

連結及びセグメント業績

Consolidated Financial Results and Segment Results

04

P.22

株主還元

Dividend Distribution

05

P. 24

23/3月期 業績予想

Forecast for FY2023

06

P. 28

23/3月期 経営体制

Management Team for FY2023

2

永井:

本日当社よりご説明させていただく内容はこちらとなります。

まず、私から当資料のサマリー情報について説明させて頂き、その後、当社の概要、連結及びセグメント業績、株主還元及び2023年3月期の業績予想について説明致します。

その後、澤岬より2022年7月からの経営体制についてご説明致します。

当社からの説明が終わりましたら、時間の許す範囲でQ&Aのセッションを予定しております。

01

エグゼクティブサマリー

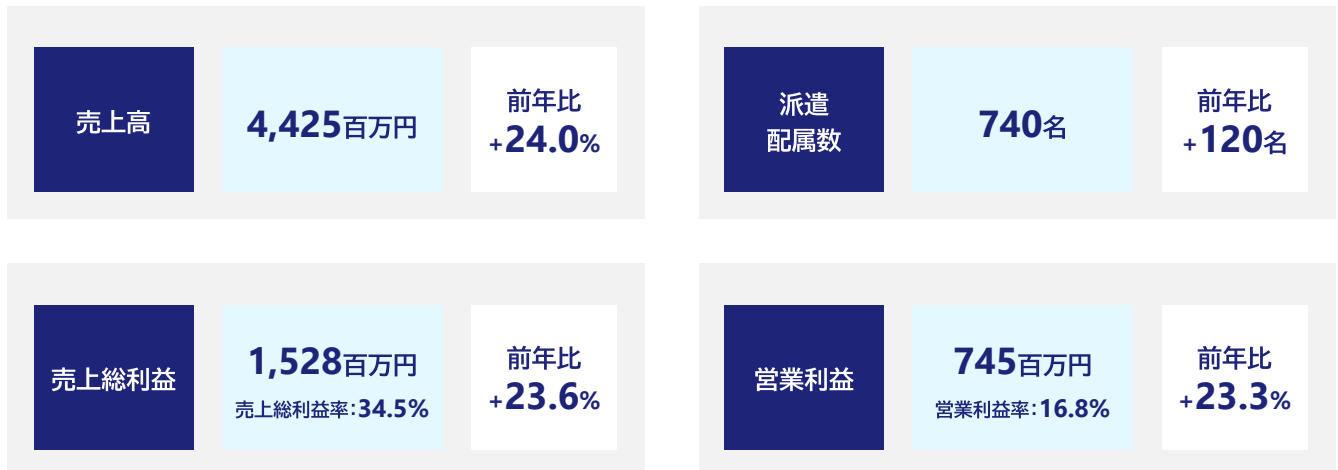
Executive Summary

永井：
まずは当資料のサマリー情報からご説明致します。

2022年3月期 決算ハイライト

- 売上高及び各段階損益について、業績予想を上回り、過去最高の業績を達成

■ 通期実績



永井:

最初に、2022年3月期第4四半期の決算ハイライト情報をご説明致します。

当社の業績の先行指標となる派遣配属数は740名と前年比で120名の増加となっており、当期の売上高は前年比で+24.0%の増加、売上総利益は前年比で23.6%の増加、営業利益が前年比で+23.3%の増加といずれも高い水準の成長率となっております。また、引き続き、高い営業利益率を維持しております。

第3四半期でもご説明したように、2022年3月期の通期の業績予想に対して実績が想定よりも堅調であったことから、本社移転を前倒しで行うことを決定しました。

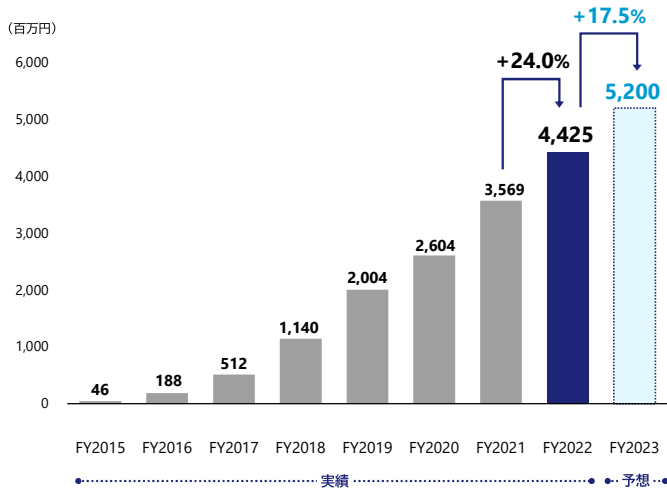
本社移転につきましては、2022年5月30日を予定しております。

次のスライドでは、業績推移及び2023年3月期の業績予想についてご説明致します。

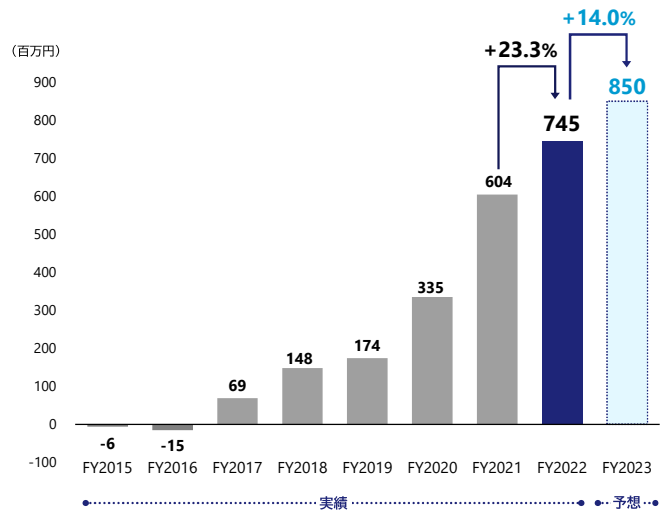
業績推移および2023年3月期予想: 全社連結

- 2022年3月期を踏まえ、2023年3月期は、売上高**52億円**、営業利益**8.5億円**を目標とする

■ 売上高



■ 営業利益



永井:

今期は、先ほど説明した通り、売上高・営業利益ともに順調に推移し、売上高44.2億円、営業利益7.4億円を着地しました。

営業利益には前倒しで行った本社移転によるコストが含まれております。

2023年3月期においては、売上高52億円、営業利益8.5億円を業績予想としております。

こちらは高い利益率を維持しながら、現在の事業を伸ばしつつ、将来への投資を行うことを意識して設定しております。

株主還元

- 22/3月期の剰余金の配当額は、1株当たり**40.0円**
- 23/3月期については、増配を予定し、通期において1株当たり**45.0円**を予定

2022年3月期:剰余金の配当

1株当たり 配当金	40.0円	予想比 ± 0.0%
配当性向	33.8%	目標 30.0%
DOE	15.7%	目標 10.0%

2023年3月期:配当予想

1株当たり 配当金	45.0円	前年比 + 12.5%
配当性向	35.2%	目標 30.0%
DOE	11.6%	目標 10.0%

永井:

続いて、株主還元についてご説明致します。

2022年3月期につきましては、第2四半期決算発表時に公表しましたように、1株当たり配当金40円の剰余金の配当を行います。

これらは、目標として掲げている配当性向及びDOEのいずれも上回っております。

また、2023年3月期の配当予想につきましては、業績が順調に推移する見込みを反映し、

1株当たり配当金を45円と増配し、中間配当20円と期末配当25円に分けて配当する予定であります。

これらにつきましても、配当性向及びDOEは目標値を上回っております。

02

当社の概要

Company Overview

7

永井:

当社の概要については、スライドの8ページから10ページに記載しております。

詳細のご説明は割愛させていただきます。

会社概要

Vision

クリエイティブの最前線で 共に未来を描く

クリエイターが
キャリアアップにより自らの夢を実現し、
携わった作品が評価され、
所属する組織、業界、社会が発展する未来を
共に創りあげていく

会社名	株式会社 コンフィデンス			
代表者	代表取締役社長 澤岷 宣之 1996年㈱スタッフサービス(現 ㈱スタッフサービスホールディングス)入社 営業マネージャー、人事部採用責任者を経て、㈱スタッフサービス・セールス マーケティング(現 ㈱リンクエージェント)入社、取締役営業本部長として派遣・ 紹介・アウトソーシング等の各事業部の成長を牽引。 2015年より当社代表取締役に就任、現在に至る			
設立	2014年8月			
本社所在地	東京都新宿区新宿2-5-10			
連結子会社	株式会社 Dolphin			
役員	代表取締役 常務取締役 取締役 取締役	澤岷 宣之 吉川 拓朗 永井 晃司 竹下 和広	社外取締役 社外取締役 監査役(常勤) 監査役(非常勤) 監査役(非常勤)	雨宮 玲於奈 水谷 翠 谷地 孝 高倉 潔 安國 忠彦
資本金	4億9,738万円(2022年3月末時点)			
事業内容	ゲーム・エンタメ業界向け人材派遣・人材紹介・業務受託 メディア運営			
従業員数	850名(2022年3月末時点)			

事業の概要

1. 人材事業

人材派遣事業 | 人材紹介事業

各フェーズ/部門のニーズに対応



アウトソーシング事業

開発～運営フェーズまでアウトソーシング対応



2. メディア事業

メディアサイト運営

Lovely
女性向けメディア



Plush
占いメディア



GAMEMO
ゲームメディア



Webマーケティング事業

メディアサイトの運営ノウハウを基に
SNS運用代行等、プロモーション支援を実施
ゲーム業界のみならず、幅広い業種に対応



当社の競争優位性

事業戦略

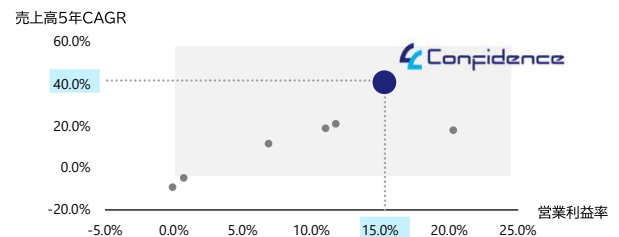
求職者数最大化と求人数最大化により
マッチング総量の最大化を実現



効率的な組織運営

分業化、標準化に基づき組織設計し、
オペレーションは極力簡易化

競合他社比較：成長率×利益率



※ 同事業を展開している他社の公表情報をもとに当社にて作成

※ 売上高5年CAGRは、各社直近進行年度予測値を基に算定(当社はFY22.3月期実績を使用)

2014年8月設立以降、後発参入にもかかわらず
高い事業成長率、収益率を実現

03

連結及びセグメント業績

Consolidated Financial Results and Segment Results

11

永井：

次に、連結及びセグメント業績についてご説明致します。

[全社連結 | 通期]2022年3月期 決算ハイライト

- 売上高及び各段階損益について、業績予想を上回り、過去最高の業績を達成

■ 通期実績

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前期比	業績予想 (2021/6/28公表)	進捗率
売上高	3,569	4,425	+24.0%	4,386	100.9%
売上総利益	1,236	1,528	+23.6%	1,473	103.8%
売上総利益率	34.6%	34.5%	△0.1pt	33.6%	-
営業利益	604	745	+23.3%	720	103.5%
営業利益率	16.9%	16.8%	△0.1pt	16.4%	-
経常利益	603	737	+22.3%	717	102.8%
当期純利益	399	530	+32.9%	498	106.6%

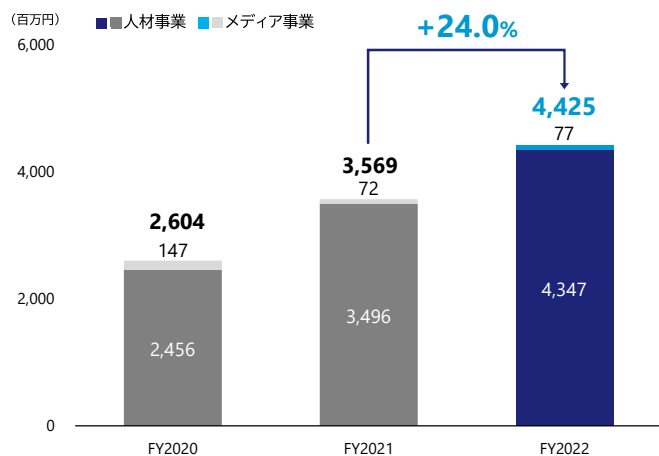
永井:

2022年3月期通期の決算ハイライト情報をご説明致します。
エグザクティブサマリーでもご説明しましたように、当期においても売上高及び各段階損益について業績予想を上回り、過去最高の業績を達成しております。

[全社連結 | 通期] 事業別業績推移

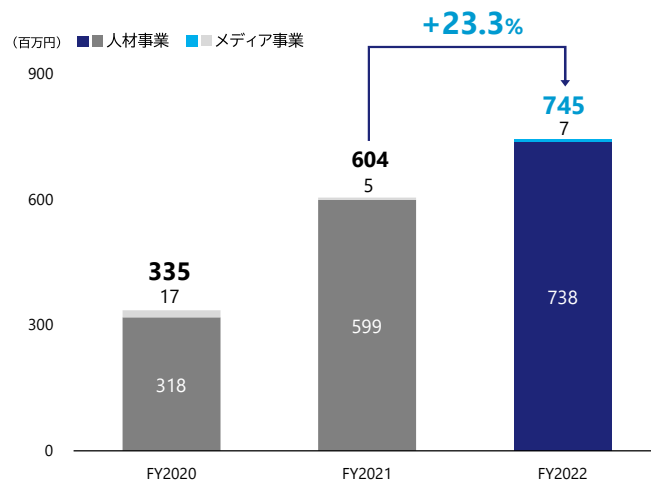
- 事業別での売上高および営業利益については、人材事業が牽引して着地

■ 売上高



* 連結相殺消去後の数値を記載

■ 営業利益



永井:

次に、事業別での売上高及び営業利益について説明します。

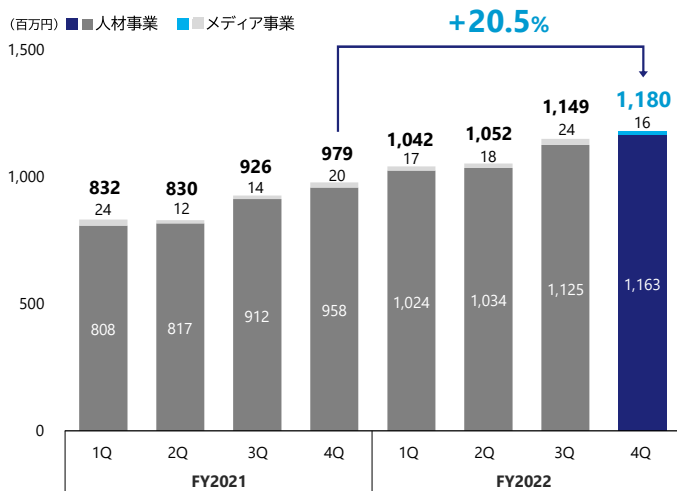
売上高につきましては、人材事業が43億47百万円、メディア事業は77百万円となっており、引き続き人材事業が牽引している状況です。

営業利益についても同様に人材事業が牽引しており、人材事業は7億38百万円、メディア事業は7百万円となっております。

[全社連結 | 四半期] 事業別業績推移

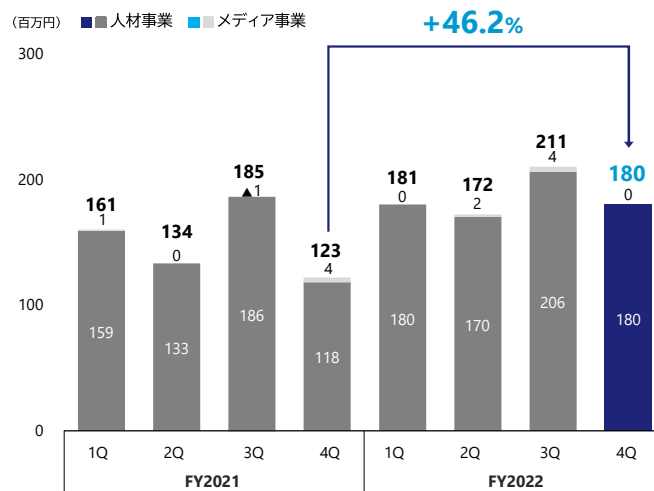
- クリエイター配属数積み上げの結果、当第4四半期の売上高は、順調に推移
- 営業利益については、本社移転の影響や業績賞与を織り込んだ上で、なお前四半期比+46.2%増

■ 売上高(四半期推移)



* 連結相殺消去後の数値を記載

■ 営業利益(四半期推移)



永井:

事業別の四半期毎の業績推移についてご説明致します。

人材事業については、売上高は継続して毎四半期成長している状況であり、前年同期と比較すると20.5%成長しております。

一方、メディア事業につきましてはほぼ横ばいで推移している状況であります。営業利益につきましては本社移転や業績賞与を織り込んでいることから、四半期毎で見ると増減しておりますが、前年同期と比較すると営業利益は46.2%の増加となっております。

[人材事業 | 通期]2022年3月期 決算ハイライト

- 高水準の利益率を維持しながら、堅調に右肩上がりでの進捗

■ 通期実績

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前期比	業績予想 (2021/6/28公表)	進捗率
売上高*	3,496	4,353	+24.5%	4,253	102.4%
売上総利益	1,186	1,481	+24.9%	-	-
売上総利益率	33.9%	34.0%	+0.1pt	-	-
セグメント利益	937	1,166	+24.4%	-	-
セグメント利益率	26.8%	26.8%	-	-	-

* 連結相殺消去前の数値を記載

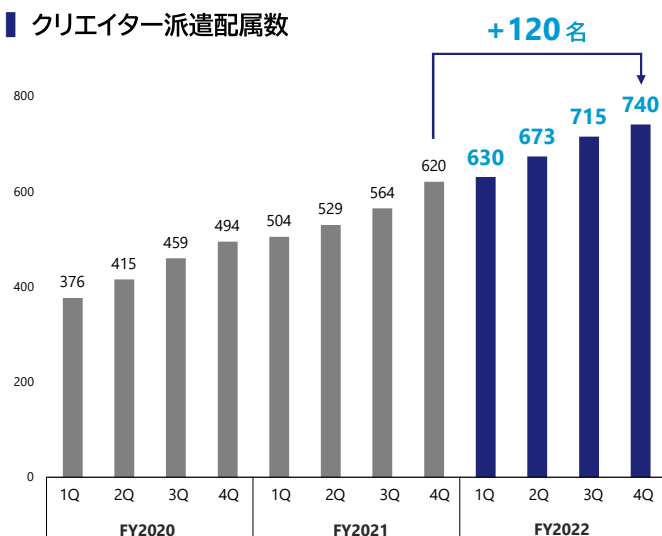
永井:

人材事業の通期業績比較においては、売上高が24.5%、セグメント利益では24.4%成長となっており、売上総利益率及びセグメント利益率ともに高い水準を維持しております。

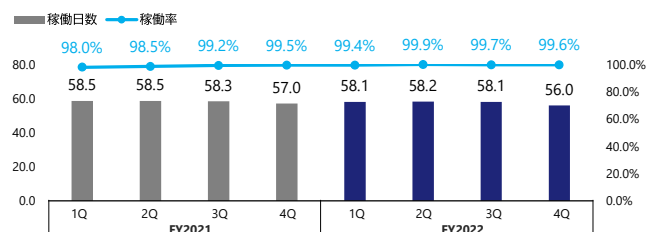
[人材事業]主要なKPIの推移

- ストック型収益モデルの基礎となる派遣配属数を着実に増加させ、**740名**で着地。前年末から**120名**の増加(期初想定:700名)
- 稼働率について、通期を通して、高い水準を維持

■ クリエイター派遣配属数

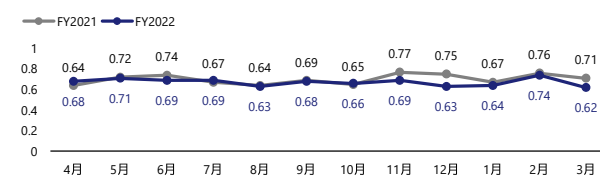


■ 稼働日数*1 / 稼働率*2



*1 営業日から平均欠勤・有給日数を差し引いた平均実稼働日数にて算出
*2 月末時点での非稼働人員を月末時点でのクリエイター数合計で除した割合

■ 日次平均残業時間*の推移



*月間の平均累計残業時間を営業日で除算した日次平均

永井:

次に、人材事業におけるクリエイター配属数・稼働率・日次平均残業時間についてご説明いたします。

クリエイター配属数は2022年3月末で740名となり、

前四半期末から25名増加、前期末からは120名の増加となっております。

これはゲーム業界が堅調に推移していること、及び当社が進める既存顧客の深耕が順調に進んでいることが要因と考えております。

稼働率は、第4四半期に関しても99.6%となっており、引き続き高水準で推移しております。また、日次平均残業時間は、前年と比較して若干減少傾向にあります。

[メディア事業 | 通期] 2022年3月期 決算ハイライト

- メディア事業については、前年対比で同水準で推移

■ 通期実績

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前期比	業績予想 (2021/6/28公表)	進捗率
売上高	72	77	+6.6%	132	58.5%
売上総利益	49	46	△6.5%	-	-
売上総利益率	68.9%	60.4%	△8.5pt	-	-
セグメント利益	13	13	+3.1%	-	-
セグメント利益率	18.1%	17.5%	△0.6pt	-	-

永井:

メディア事業については、前年対比で同水準で推移しております。

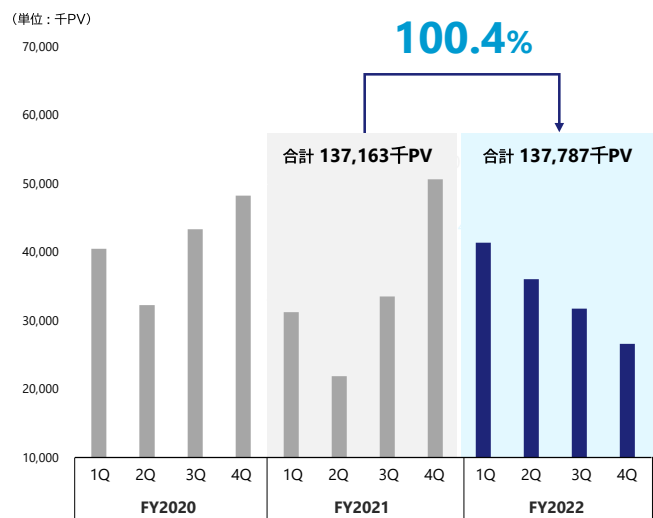
こちらについては、当社グループ業績に寄与するようにSNS運用代行やプロモーションサービスの拡充を目指すべく施策を講じておりますが、

現在のところ、その成果が表れるところまで至っていないという状況であります。

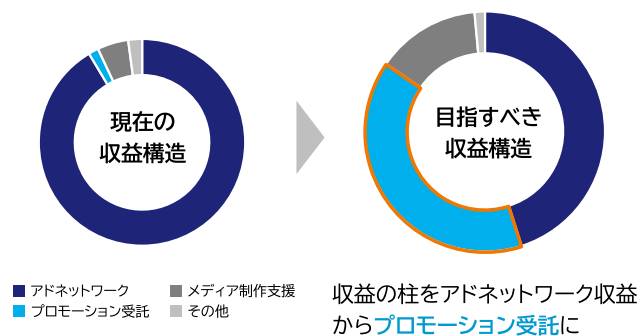
[メディア事業]主要なKPIの推移および目指すべき姿

- PV数については、通期合計では前年同水準で推移するも、収益構造の転換が必要

■ PV数の推移



■ 目指すべき姿



永井:

PV数の推移は、2021年3月期と2022年3月期の通期で比較しますとほぼ同水準で推移しておりますが、

四半期推移で見ますと減少傾向にあるため、PV数の増加を図るとともに、

収益構造の転換を図るべくアドネットワーク収益中心の収益構造からプロモーション受託中心の収益構造に変化を図っております。

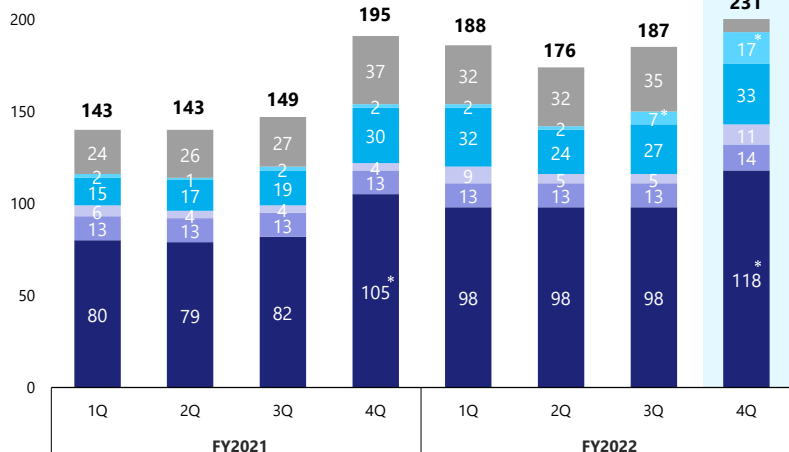
[全社連結]販売費及び一般管理費の推移

■ 4Q会計期間においては、業績賞与引当金繰入や本社移転に関する減価償却費の増分影響を織り込んで推移

■ 四半期推移

■ 人件費 ■ 地代家賃 ■ 租税公課 ■ 支払手数料 ■ 減価償却費 ■ その他

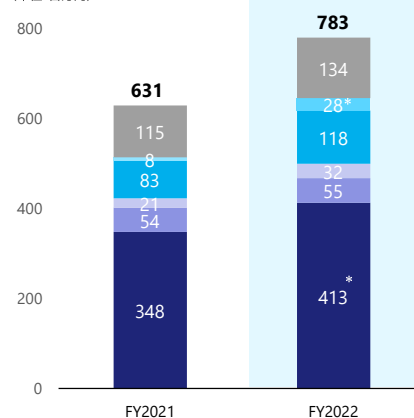
(単位:百万円)



■ 年度推移

■ 人件費 ■ 地代家賃 ■ 租税公課 ■ 支払手数料 ■ 減価償却費 ■ その他

(単位:百万円)



* 業績賞与を含む(FY2021:15百万円 | FY2022:16百万円)
* 本社移転影響額を含む(FY2022:19百万円)

永井:

販売費および一般管理費の四半期推移ですが、

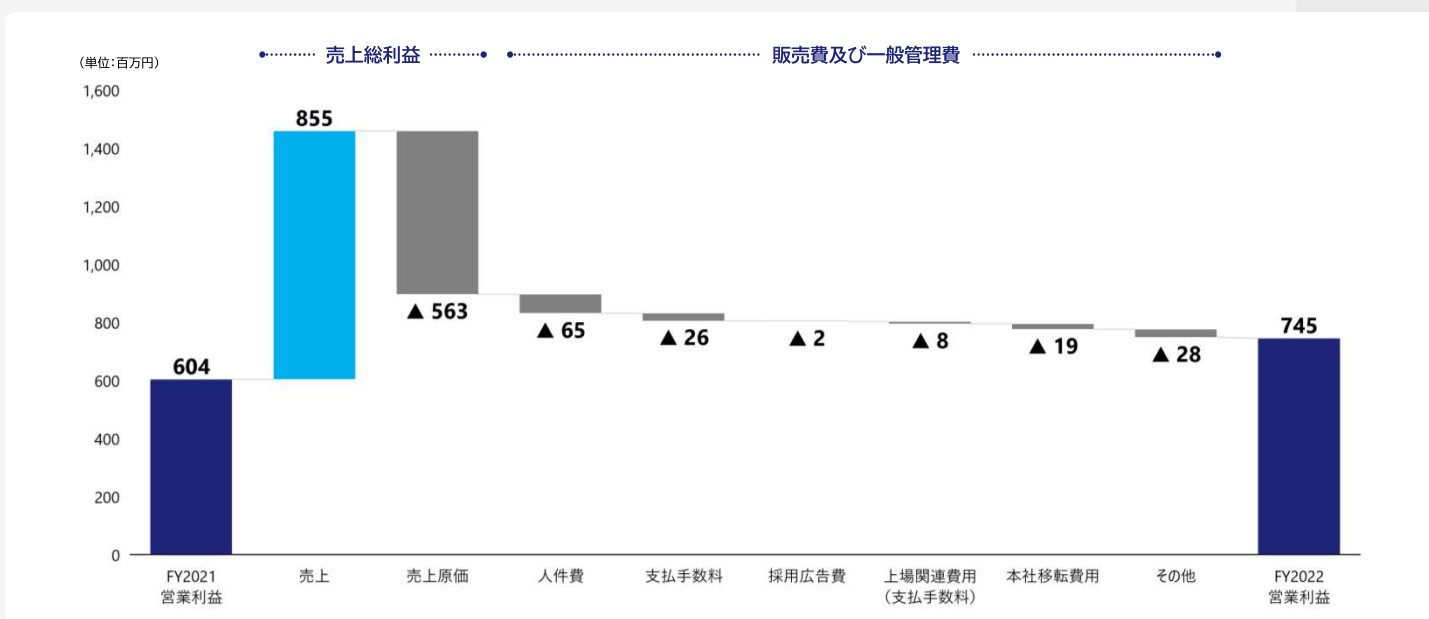
第3四半期と比較して、科目ごとにみますと人件費が増加しております。

こちらは、当期の業績が順調に推移したことから業績賞与を引き当てたことによるものです。また、支払手数料及び減価償却費が増加していますが、減価償却費は本社移転による影響が含まれています。

その他は大きな増減はなく、適切にコスト管理を行っております。

[全社連結] 営業利益の増減要因分析(対前年同期比)

- 規模拡大に伴い、売上総利益は順調に増加



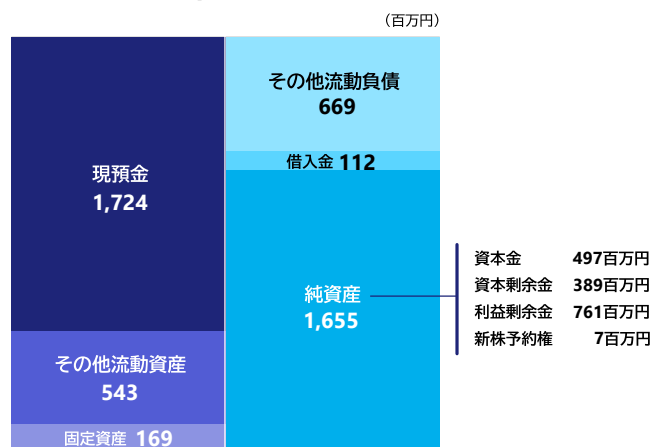
永井:

こちらは、営業利益の増減要因を前年同期と比較したものでございますので、ご参照頂ければと存じます。

[全社連結]貸借対照表・キャッシュフロー計算書

- 財務安全性についての懸念はなし
- CFを順調に獲得している状況

FY2022 4Q末 B/S



FY2022 4Q C/F

(百万円)

2021年3月末現預金残高	940
営業CF *	+461
投資CF	▲64
財務CF **	+387
現預金増減額	+784
2022年3月末現預金残高	1,724
財務指標	
ネットキャッシュ	16.1億円
自己資本比率	67.6%

* 営業CF小計+735百万円、法人税等の支払い▲267百万円、その他▲6百万円
 ** 上場による公募増資+473百万円、長期借入金返済▲90百万円、その他+4百万円

永井:

貸借対照表及びキャッシュフロー計算書についてご説明致します。

貸借対照表については、前四半期につづいて、十分に現預金を保有しており安全性に問題はございません。

純資産のうち、利益剰余金が一定程度積みあがっている状況ですので、先ほど申し上げた通り、1株当たり40円の配当を行います。

なお、3月に当社役職員の新株予約権の行使がございましたので、資本金・資本剰余金がそれぞれ約5百万増加しております。

キャッシュフロー計算書については、堅調に業績推移していることから営業CFは4億61百万円増加しており、

財務CFは上場による公募増資4億73百万円の増加と長期借入金の返済90百万円の減少等により、3億87百万円増加しております。

04

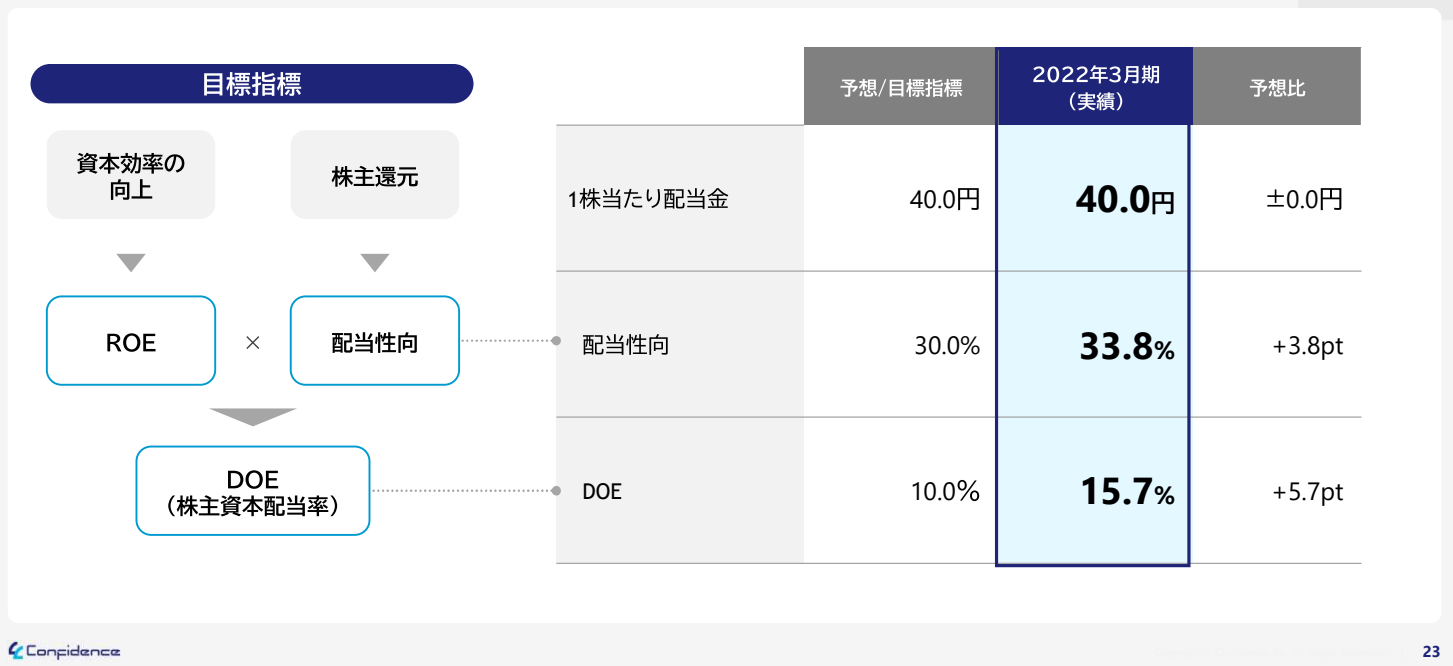
株主還元

Dividend Distribution

永井：
次に株主還元についてご説明します。

2022年3月期 剰余金の配当

- 22/3月期の剰余金の配当額は、1株当たり**40.0円**
- また、目標指標として定めている配当性向、DOEについて上回って着地



永井:

エグゼクティブサマリーでもご説明させて頂きましたように、2022年3月期の剰余金の配当は1株当たり40円と致しました。

これは、目標として掲げている配当性向30%、DOE10%のいずれも上回っております。

2023年3月期においても、目標値として定めている配当性向とDOEを達成できるよう安定的な配当を行っていく予定です。

05

23/3月期 業績予想

Forecast for FY2023

24

永井:

次のスライドからは2023年3月期の業績予想となっておりますが、冒頭のエグゼクティブサマリーでご説明した内容と重複しますのでここでの説明は割愛させていただきます。

新たな経営体制に関するご説明に移りますので、代表の澤岬に説明を変わせて頂きます。

2023年3月期 財務目標

- 中長期的な成長を踏まえて、2023年3月期の財務目標として、以下を前提とした事業計画を策定

成長性 指標	売上高成長率	▶	15%~20%
	売上高総利益率	▶	30%超
収益性 指標	営業利益率	▶	15%超
	配当性向	▶	30%超
株主還元 指標	DOE	▶	10%超

2023年3月期 業績予想

業績予想

(百万円)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	前期比
売上高	4,425	5,200	+17.5%
人材事業	4,347	5,070	+16.6%
メディア事業	77	130	+68.5%
売上総利益	1,528	1,787	+16.9%
売上総利益率	34.5%	34.4%	△0.1pt
営業利益	745	850	+14.0%
営業利益率	16.8%	16.3%	△0.5pt
経常利益	737	848	+14.9%
当期純利益	530	585	+10.3%

* 連結相殺消去後の数値を記載

2023年3月期 配当予想

■ 配当予想

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	前期比
1株当たり配当金	40.0円	45.0円	+12.5%
中間	0.0円	20.0円	-
期末	40.0円	25.0円	-
配当性向	33.8%	35.2%	+1.4pt
DOE	15.7%	11.6%	△4.1pt

06

23/3月期 経営体制

Management Team for FY2023

28

澤岷宣之(以下、澤岷):

それでは、私の方から2022年7月からの新たな経営体制についてご説明致します。
。

経営体制の強化 役員体制

- 2022年7月以降の経営体制として以下を予定(2022年6月30日開催の株主総会で選任決議の上、正式決定)
- 新任取締役には、ガバナンス強化に加え、ゲーム・エンタメ・インターネット業界の知見に基づく助言を期待

取締役

氏名	選任後の役職(予定)	常勤/非常勤	再任/新任
澤岬 宣之	・代表取締役社長	常勤	再任
吉川 拓朗	・常務取締役	常勤	再任
永井 晃司	・取締役	常勤	再任
雨宮 玲於奈	・社外取締役	非常勤	再任
水谷 翠	・社外取締役	非常勤	再任
三木 寛文	・社外取締役	非常勤	新任
青木 利則	・社外取締役	非常勤	新任

監査役

氏名	選任後の役職(予定)	常勤/非常勤	再任/新任
谷地 孝	・社外監査役	常勤	任期継続
安國 忠彦	・社外監査役	非常勤	任期継続
藤森 健也	・社外監査役	非常勤	新任

澤岬:

2022年7月以降の役員人事についてご説明を致します。

来たる6月30日の株主総会において、

取締役として、三木寛文(みき ひろふみ)氏、青木利則(あおき としのり)氏

監査役として、藤森健也(ふじもり けんや)氏

以上3名の新任役員を含めた形で、選任決議を付議いたします。

予定通り株主総会において選任が決議された場合、7月以降はこちらに記載の体制となります。

経営体制の強化 新任取締役

- 新任取締役の主な経歴は以下の通り
- 経歴を踏まえ、それぞれの期待役割を果たすことでゲーム業界での存在感を一層強化するとともに周辺領域への展開も視野に入れる

三木 寛文 (みき ひろふみ)

取締役 (社外取締役)

主な経歴

株式会社JTB、株式会社アイ・シー・エフを経て、株式会社サイバードで事業開発に従事し、その後グリー株式会社の初期メンバーとして事業開発を行い、急成長に寄与。
その後、MKマネジメント株式会社を設立し、エンジェル投資家として日本、US、東南アジアのスタートアップに投資・支援を行っている

期待役割

ゲーム、エンタメ、インターネット関連業界への知見を踏まえ、当社がさらなる成長を遂げるための助言を期待。
また、メディア関連業界・スタートアップベンチャー企業とのコネクションを有していることから、それらの領域への進出においても貢献を期待

青木 利則 (あおき としのり)

取締役 (社外取締役)

主な経歴

株式会社セガ・エンタープライゼスを経て、株式会社マーベラスに入社し、取締役に就任。
同社で家庭用・業務用・スマホ向けゲーム事業に携わり、ゲーム事業の責任者やゲームセンター事業の立ち上げに従事。ゲーム業界に幅広いコネクションを有している

期待役割

ゲーム業界への知見を踏まえ、ゲーム業界における人材面・ビジネス面での助言を期待。
また、ゲーム開発会社を中心とした人脈を有していることから、ゲーム開発会社とのアライアンス構築や当社のゲーム開発における人材教育の強化についての貢献も期待

澤岬:

新たに取締役として就任を予定している三木氏、青木氏の略歴はこちらとなります。

三木氏については、エンタメ、Web業界における豊富な知見やエンジェル投資家としてのスタートアップ企業への数多くの支援実績によって培われたコネクションが強みです。

青木氏については大手ゲーム会社において、様々なプロジェクトに携わり、国内外の豊富なコネクションが強みです。

それぞれの強みを活かした助言やご協力を期待しております

両名の参画により、当社の成長戦略の推進力をより高めていけるものと期待しています。

以上が、私からのご説明となります。



クリエイティブの最前線で共に未来を描く

本資料のお問い合わせ先: 管理本部 (ir@confidence-inc.jp)

本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

永井:

以上をもちまして、当社からのプレゼンテーションを終わりたいと思います。
ご清聴ありがとうございました。